

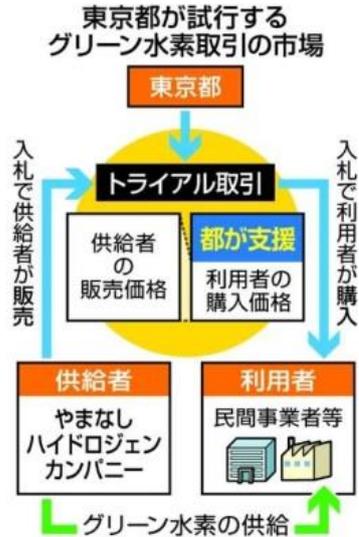
年 組 名前:

# 県産水素 東京市場で取引 都内2社が落札 供給開始

山梨県が民間企業と共同で出資して設立したグリーン水素供給などを行う「やまなしハイドロジェンカンパニー(YHC)」は、東京都が試

行する市場形式によるグリーン水素取引を通じ、都内企業への水素供給を始めた。供給側の販売価格と利用者の購入価格をそれぞれ入札で決め、購入価格が下回った場合は都が差額を穴埋めする仕組み。YHCは希望した販売価格で供給できる利点がある。都によると、市場形式のグリーン水素取引は世界初。県企業局は世界的な発信力のある「東京」の事業を活用し、県産のグリーン水素事業のPRにもつなげたい考え。県企業局新エネルギーシステム推進課などによると、市場形式のグリーン水素取引は都が水素の取引機会創出や利用促進のために試行的に実施。水素取引所を設け、供給者の販売価格と利用者の購入

価格をそれぞれ入札で決める。初めて行われた入札では、YHCが1立方メートルあたり300円で販売・供給する権利を得て、都内で事業をしている企業2社が落札した。企業名は非公開。購入価格はトレーラー輸送が同89円、ボンベ輸送が同230円。トレーラー輸送の同211円、ボンベ輸送の同70円の販売、購入の価格差は都が穴埋めする。水素の供給は今年14日にスタート。YHCは1～3月の約3カ月間で計約2万3千立方メートルを供給する予定で、販売額は計約700万円を見込む。都は4月以降も市場形式の水素取引を継続する方針で、YHCも供給継続を目指している。



水素の普及に向けては石炭など既存燃料との価格差が障壁で、都の事業を通じた県産水素の利用拡大が期待される。同課によると、営業だけで供給先を見つけてるのは難しいという。同課担当者は供給と利用のマッチング、価格差支援が同時に受けられ、発信力のある都の事業の中核を担うことで企業としての信頼度も高められる」としている。

〔雨宮文貴〕

(2025年1月23日付 山梨日日新聞1面)

### 問1

山梨県と民間企業が出資して設立した会社(YHC)が、東京都を通じ、企業への水素供給を始めました。その仕組みと始めたことによる山梨県の利点を答えてください。

・仕組み: .....

・利 点: .....

### 問2

YHC の1立方メートルの販売価格と、都内の企業が購入する価格を答えてください。

・販売: .....円    ・購入(トレーラー輸送): .....円    (ボンベ輸送): .....円

### 問3

今後、あなたは水素エネルギーをどのように活用すれば良いと考えますか。自由に答えてください。

.....